

# リズム知覚の基礎としての時間知覚に関する精神物理学的研究

中島, 祥好

<https://doi.org/10.11501/3159287>

---

出版情報 : 九州芸術工科大学, 1999, 博士 (芸術工学), 論文博士  
バージョン :  
権利関係 :

## 目 次

第 1 章	本研究の背景	3
1. 1	序論	3
1. 2	時間分解能	5
1. 3	リズムを生ずる時間間隔	7
1. 4	時間長の弁別	8
1. 5	時間長の心理尺度	8
1. 6	本研究で取り上げる実験状況	9
1. 7	<つけくわえ仮説>の詳細	17
1. 8	本研究の目的	18
1. 9	本論文の構成	19
第 2 章	線分尺度を用いた時間長の比率判断	20
2. 1	目的	20
2. 2	一般的な方法	21
2. 3	実験 1 : 隣接する 2 つの空虚時間の比率判断	23
2. 3. 1	目的	23
2. 3. 2	方法	23
2. 3. 3	結果と考察	24
2. 4	実験 2 : 隣接する 3 つの空虚時間の比率判断	28
2. 4. 1	目的	28
2. 4. 2	方法	28
2. 4. 3	結果と考察	28
2. 5	実験 1、2 に対する考察 : 心理尺度の形について	31
2. 6	実験 3 : 隣接する 3 つの空虚時間を細かく変化させる	34
2. 6. 1	目的	34
2. 6. 2	方法	34
2. 6. 3	結果と考察	34
2. 7	まとめ	39
第 3 章	数を用いた時間長の比率判断	40
3. 1	目的	40
3. 2	実験 4 および実験 5 : 隣接する 2 つの空虚時間の比率判断を 大規模に求める	40
3. 2. 1	目的	40
3. 2. 2	方法	41
3. 2. 3	結果と考察	45
3. 3	Sternberg らの実験の再分析	54
3. 4	実験 6 : 隣接呈示と分離呈示との比較	57
3. 4. 1	目的	57
3. 4. 2	方法	57
3. 4. 3	結果と考察	60
3. 5	比率判断実験に関する全般的考察 : 異なった観点との比較	63

3. 6	まとめ	72
第4章	楽譜上のリズムとリズム産出	73
4. 1	目的	73
4. 2	実験7：単純な記譜リズムの演奏	74
4. 2. 1	目的	74
4. 2. 2	方法	74
4. 2. 3	結果と考察	76
4. 3	実験8：隣接する時間長の比率の調整	82
4. 3. 1	目的	82
4. 3. 2	方法	82
4. 3. 3	結果と考察	84
4. 4	まとめ	87
第5章	時間長の弁別判断	89
5. 1	序論	89
5. 2	再分析の対象となる実験の概要	89
5. 3	ウェーバーの法則の修正	91
5. 4	Getty の修正と本研究における修正との比較	95
5. 5	まとめ	96
第6章	<つけくわえ仮説>から導かれる時間知覚のモデル	98
第7章	結論	102
引用文献		105
謝辞		112
付記：ウェーバーの法則の修正に関する詳細		113